吾妻道記

特別
ル3
3572

清
門ル3
號3572
巻

宮城県図書館蔵書

吾妻道記

法下尭恵

東野別一男兼別都主

久しきをしけさのしるし九十七乃秋英濃乃国平頼数

左国衛乃山亭ゝ藤皇ゝ秋風乃信濃都

を思ひ出てゝ

雲海こそ知るべきのきと山

関乃ゝ秋風ゝ花ゝ

かなしきゝ年九十八のさ月の三日ゝ花ゝ乃

山海をこのこゝ有ゝまゝ方へゝもゝ作ゝ忘

住山をみるゝ人の世ゝ方山ゝをゝ

源

をこのさこそとたづねし

有とも香ぬし嵐をさそふ俤やま
桜ふるさとに咲るかをるも

名ぼうこそ浦さびしけれ

今おゆる月をうつす波の山や
雲こそ乃月は乃夕風こそ

立山乃麓をすそとして都中ほう法中ほう法ゆ

むかし新堂らの道を出て山ゆ
宮に消をゆあるとは乃こまてる

たこの浦をいはゆ地なるをんなたちやを作り
ゆ乃戸ゆ乃地へらのをとうゆ思人ゆ
ゆためとそ夕しの風ゆ乃浦波
ことをるのうるゆ乃海の海ゆのうときこえしゆ
菅草乃ちけ末を新末を物を乃海ゆ
吹こゆの風ゆ思ゆとそゆ乃ゆ

早稲ゆをうとゆ稲ゆまこゆ乃ゆ
旅乃夜時ゆをゆうめゆ稲ゆ日ゆ
ゆはさゆをこゆ乃ゆ白波

長安寺を時宗にしたがはしめ四十八ケ所をもうけ
くとうんでくせをなほしたがはしめ
四十八のまわり八乃道なりとも
[illegible]
六月十三日鎮西府中御家人
しるべおれし東海道師を奉し鎌倉管領
ふるまひかさねて此浦々まで
[illegible]て物こゝろ[illegible]ふ彼社勢八方の前と云老翁
物こゝ此御神八菅三郡御[illegible]進發乃時より小海

據
擁護乃神こゝろ[illegible]明神と中古家を向
[illegible]こゝ中作ゝ
（右多ノ明神古ハイクトヒ
今ハコヲトヒ住吉大明神也）

[illegible]家宮乃外まて八海と家
神尾源しこゝ沖波乃風
此宮乃大守相模守藤原房定の家こゝ
ゝ[illegible]ゝ浦波の夢をさこう
に制旅館を最勝院といふ松ゝし樹陰の
源風独りあるかとゝ七夕にいこう星
此方向ゝに蒙国乃前此濱乃名を梶乃

紫を吹うゑ色をさそふの秋風ちられを見ん

七夕祝

五向せん業一方代うさ　北海り

ちはやぶる梶乃葉の前乃流の水

十四十六歳ゝ八幡宮に詣ゝ御堂を通

夜し作り別当勢乃宿坊内陳へみち川

作の水ゝ蛙を聞へすゝ涌割よゝ新ら

と見るに法沈乃年新のさゝ乃を

ふかゝけ色葉木北風深さも

むら雨家方北秋乃ゝ川辺

ゝん橋山ゝ法堂北風を泊作ゝと尋作り

和ゝ歌ゝ作り橋ゝも山川を霧ゝゝり

て地ゝいとあゝしゝゝ北作乃ゝりてなと

実しゝゝ只堂前乃月業のゝ〳〵ゝ色ゝ

眺作りて

うゝさゝゝ八みとゝを堂ゝ清月を

石新りゝん橋乃山

ちゝ河川ゝ御堂北初んゝまゝふゝり

屋うりゆく流乃いはくらもたる海川
屋乃色清く煙れる夜の月
四月八日越後乃守殿より藤信をなくさ
むる事数日に成ぬ八月の末より又藤たち
相海といへる所まで夕より人々
なくさむる事
補 七月廿六日こけとも相海
乃浦うりもたる秋のむらゝ
ゆくすゑもなきなる山路にさゆる
色ぞ

色沙弥瞻絶之人とも云ふ所一説信濃
上野乃境三国の峠ゆ者といふ谷をよへ行る
に諏訪湖ゆ門をくゝ出る
とゝの海よりぬとゝもらさハ三国山
ゆゑ乃松を神やゝ
重陽乃日上州白井と云所ゆ藤原
新定国旅迫ゆ藤原を別ここゝ十三夜ゆ
八幡宮ゆ参詣
まゝ屋乃ゆとゝ乃梅ゆ来る

みちのくの新しき所なるべし

さて栗駒路を行きて第一乃温泉は二七
日行りて汐を汲みて作なり 鎮守乃
明神乃前まで山中を入て伊香保乃
如湯より極りなきを見るに濃日
此嶽の雪いまだ白く残りて流日
なり 夫より出て

栗駒山乃北麓

滝乃如嶽北麓をみる

一七日ばかり行て湯乃上なる千岩
乃道なるべしとのことなり 大なる京
なりと其一方にて見る高厳を滝乃如
といふ 麓より流れ出る沼と
いふ 是を行て往還を辛て分の
沼なり 衣くるみ乃沼なり
なるべしとあやまりをとること 信し
来れる乃風俗はことなり 手拭

菖蒲が根霜と常たるは清し杉が杜の
あるじ殿の育むまつのうるはしく
槿しあるいは乃御社若
如常し衣が前の濡るるもなほ
神社月十日雨まれり小彼玉府長野が陳
所に到る半晴時よりなほ泄野は秋ノ
霜を置いるるしし我端いまるる拂ふて
軍兵ども所にそれ拾ふる秋ふれもらるを
を川端に到る夜をるるれ宋国が指南ふ

上杉右馬頭

るるる義宗那定慶乃旅衣が心ありて旅宿を
なほ陳ふ拾ふれし後を巌霜をそこやうあり
平顕

箱林

忠尾後深廣ふる今霧中雲
むさふ北や何の苗栗がるれるる
舟いふる雲が北が雲乃るる
十一月六日ふ作野乃舟橋ふ玉が表宗忠信を
ふふ人とふり彼宗をふるに西乃方ふ一るる
ふるるるる是ふふ人日雲山ふる到る荒社

妙義

乃御社乃山あり清乃が巌崖ふ

西橋は黄瓦葺の岸とたかくさかりこの西北
西にうつりて岸より二町ばかりあるを
とりの池とうりの老人おのく黄瓦の跡を数ふ
水をうつく細さ沼乃うちにて二三尺ばかり
なる石沼新沼せり是さるあるみるさ
きつく松ことを思へるこころなり

蒲をうつこと黄瓦

うつくしき西橋を
あくことの祭ばかりのくるを家

十二月の末ゆきうりの暖をこ
ばうくちうりの花をいとかさ云ふり
をもふ少し枯野を詠り海をうるに
黄千里とうたなくゆきよ墨りて空は紅日乃
うちまもなくうしあり多家風京肝り
縁しかりふ

新月新京ふうてゆく草ば
霜うり明をみるむさうしかを
玄鶴は法法と云ふり詠りて武蔵野を

少行て野径乃ほとりに名あらはし楳山
あり雛の窟を踰えて北ふもとの方に
山の裾をめくりはりなる池を

汐なし汀乃桔梗咲にほひける
中島もなきまの池のあさ風

十日の夜より漸富士ハみえ行りけるに
とらる頃の?に桔梗の花さきたり浪も志ら
行りからうして燈り行の里混せ悪水の
風とり吹き出あり十日の夜殘月のかかるに

桔梗萩の末り落ちりて朝の日又東
乃そらにのほり光斜めにあたる富士蒼天に
武くしてうく?さき翠をすく聳り唯頂に
あるかと白雪地上としておほ?かかり
むなり

暮さみ道は?なくまつ富士の秋の
なからむ思ひをあこさた高乃穴

廿二日より八潟田川乃ほとり鳥飼といへる
海村に普請といふ義あり彼宅有笠屋と

[illegible]て雨松[illegible]あるを金光寺に至
宿し信濃十九年元日に
治まる御源を明神あらや法[illegible]乃
[illegible]と志海神ふ志やさん

元日立春

[illegible]ふ立ともいさ武蔵野や
かすもも山なさ三[illegible]野し里
国府乃末武蔵野し[illegible]れ悪[illegible]し後五し
今号牛天神
今号上野
信濃社の神天神と申信乃[illegible]

家苦[illegible]を焼信乃
[illegible]し[illegible]誰[illegible]ふ志[illegible]に
[illegible]に[illegible]
[illegible]に波[illegible]と云[illegible]を古松[illegible]
追連乃内小武蔵野し[illegible]を[illegible]に
寒村し道[illegible]梅感し蓋に[illegible]御
神とさ[illegible]しは
[illegible]に[illegible]
[illegible]し神[illegible]の香

さきらこと此始終乃義乃為にして隅田川
にうひぬ東岸をて下総西岸をて武蔵野よ
りけり利根入乃乃二川落あへり彼舊
をうるを東北流水出村あり西北流
孤村をなす面白ハ（悠）こと
晩霞曲江水なる海帆野草をたゝ
とゝ乃乃鏡沙蒼穹北望んとしあるも
冨士碧落北西より河口（蘆カ）に注頂をこしたた
元禄甲戌に夕日を常陸月宮にうつる扁舟
ゆきこゝをして江城小山の渡田川
浪乃上北首をとゝ八渡田川
すもやちこと名北渡り
亡日乃乃沈蒼山をたとり明月山徑玄葉
乃乃に一首北云の風を松とをり
秋なかふ云北寒流をうちとけに
あるはまこと北山乃河しや
此夜八蘆り屋へまいりぬ霊木長松流しな
まして毒八をちに乃をとんこりける法師乃者

長浜は浦井の濱の名井遠に霞こそ
く宮に堪なれ
吹上の春の霞を沖津洲より
まそろや鶴か邑乃雲この勢
おしなへてたか岩波さこ山をうち旧跡
乃宮に清うらなる前をそうて三浦か浦乃
雪き濤を扇ことして行も蒼海の色つも
なきさらへ西の富士か大虚にうかみ浮ふも
あつま路のいはくいかれとふし絶妙と

しるまてあそん安さもみえ侍かとうちなんして
春の色乃みよりはうかつ富士の麓を
たかは海のさうしも宮うらそてへる
此浦乃あり名と云前の磯のよみ本常和
東下野守常縁一男
侍り意とりいさるみ岩の枕とりくをと
なる此浪ふこうつりけす
難波なるありを名たてとけむも影もみ浪
三浦の浦の浪乃声しく草し
弥生半にたつね常和ふいさるまてまくる扇

舟浦作り、又鎌倉に[illegible]建長円覚寺等遺
見て[illegible]ては[illegible]所をもけ作りに門
碑遺跡数ヶ[illegible]所[illegible]寺乃跡
若此[illegible]て[illegible]ヶ[illegible]ヶ[illegible]
芸藩[illegible]
[illegible]
日[illegible]浦[illegible]
[illegible]嚴沢沼[illegible]
水濱考濱[illegible]

みなと浦川[illegible]
[illegible]三浦[illegible]
[illegible]
[illegible]常和と同[illegible]流舟し掉さ
て河流へ流て作り西此方の流近[illegible]
[illegible]
濃大海しまと則交[illegible]蓮葉洞といへ[illegible]
秘[illegible]
作りに流[illegible]
[illegible]

鼎乃うへなる山橋を飛
こゝ蓬萊の中なる風烈〳〵海面まで舟を
さゝ流大山をなくりて大無乃弘誓を拠
む夢覚ぬ〳〵て又光明寺九流〳〵駆行り其
夜を拠風あやまり

なのまゝすこみさしの海乃沼枕

けらてをあくる九壹乃うゝ美

鎌倉五山ノ

盤乃津那寺より入くみなふ蓬萊まで春乃茅
にのこふなる元ゝこ拠くゝ苔九翠に等しとハ

少宝一花開五葉九遠意を須ぬうゝ芝ん
ゝ宿智乃屑ゝ為寺ゝ流る社山ゝ拠の
木ゝ社ゝ稲荷明神なり白狐形ゝ付ハ
寺家に住陽有門前九叢祠ハ鎌を面行り
住吉乃縁記ゝ何乃御神ゝ毛ゝ流ゝ
拠ゝ拠御社ハ大蔵冠乃住流ゝ山ゝ流ゝ
役霊祠乃鎌を納めゝ九鎌倉山ゝなゝと芝ゝ

流ゝ取し神ゝ面ゝ拠乃東九

ゝゝさゝまの堪む山乃姉ゝゝ

俳家北条陸奥守重時建立

極楽寺へ参り給ひて夜ふけ
ゆ慶わり音無瀬に星月夜
と右衛門作しうし

今宵は星月夜てそ鳴く蛍
かりのこゑ乃屋らの所
まつ三浦の海に漕ぎ出る
とて夜とともに

実俺は三浦乃海乃岩ゝ
枕ゝ乃海の波ゝ

雲に紛波ゝ漕ぎ出ゝ

住人をあはれとて
山を深ゝ分け入乃面白ゝ

大原乃来俳重ゝ
して冨士ゝ見ゆ

伊勢ゝ乃海ゝ
明ゝ
山ゝ

同ゝ三浦今波ゝ

住人をあはれとて大師を悪像作り
山を深ゝ分け入乃面白ゝ

大原乃来俳重ゝ乃漫ゝと
して冨士ゝ見ゆ

伊勢ゝ乃海のやうにゝ
明ゝ乃氣色面白
山ゝ

同ゝ三浦今波ゝ乃海の

海をこゆる青海をたちて海をこゆる
神奈川の乃勝地なり金沢より
小栗弘法寺貴時建立
称名寺といふ乃寺を青木相郷いふ
して此一帯の河畔山ちさ美たつ庭
乃紅葉を作りて桜をけ木を染
を色を作るを空中乃楓樹杉樹を
佛殿の新を作り
記念乃附属をなすしと
記念乃附属をなすしと

此ノ少キ不審ナル処ノ写ス
乃元月北を東潮田川の色つをして遠村々を
をを乃乃日新北あを文章に
八月乃星やり多をの色
同廿八日武蔵野のう地中池と云所より
半重後といふ乃信濃乃新
をを乃入を瞻望を北何乃美乃北あを
只白雲北を乃を乃泥乃をひを又
中やを乃星へを乃を作りを
雲掛ふを乃を神を乃村濃乃

[illegible]に[illegible]の[illegible]
潮日たりてさしもの[illegible]
[illegible]を流さ来りぬと暑さ高の[illegible]
に草[illegible]
[illegible]泡[illegible]乃隆[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]富士の[illegible]草[illegible]の
白雲あり[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]井[illegible]草[illegible]
七夕[illegible]里[illegible]憲[illegible]永[illegible]許[illegible]秋[illegible]
[illegible]
[illegible]
秋[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

俤をいとゝ分て入隅田川

袁きなわつゝか池乃あき哉

九月十三夜向井元端亭にて松間月

工仗氏部大輔定昌

ちゝ酒をゝ池をゝみゝて松虫の

ふるわゝいなる琴乃音乃

九月廿三日に長野陳百宅にて景物のおもゝく嘗秋ノ

詩歌

さゝら池乃秋乃別の櫛乃

玉ぬけ山乃もみぢ

十一月乃末ゝ上野地さゝらゝ越之山中

石付 上杉相模守憲定二時法名常恭旅所

土佐秀濃守

とゝ山乃へ源房政ゝ

て酒宴を催乃へゝ

俳諧

帰路乃ゝ居ゝ乃ゝ

山ゝゝ乃れ乃ゝ

廿七日山寺より四ゝ

ゝゝ乃ゝ

滝佐ゝ寺乃光や誘ふらん

浪ゟ楽師乃天乃也と称川
時ニ之ハ三国山浅之人伝えて本朝郷ゟ宮と古乃
え聞さらんや琴ら楽治のき伝らんと云々く
論ん人ゟく申しく天壺なゟん
宮ゟりむすゟく本朝此抄

長享元年十二月一日　法印堯恵

宝永七庚寅稔於武陽駒込之旅亭書写
熊耳庵
軌中

吾妻道祀有沢武兵衛雅何家本也以兼授稿者
忠人〻乎
享保十乙巳二月六日　同月廿日校合朱書入

源将紀年忠友書入